# 2022年 10 月教会便り 美唄～砂川

主任司祭　　ナルチゾ神父

今月は、わたしたちになじみの深い聖人、幼いイエスの聖テレジア（小さい聖テレジア）、アシジの聖フランシスコ、まだその他の有名な聖人を祝う月です。私はフランシスコ会員として皆さんにアッシシのフランシスコを紹介したいと思います。

私は第二の太平洋戦争中に北イタリアの農家の家で生まれたのですが、主にサクランボ・ブドウなど大自然の物を作って暮らしていました。毎日４０分ほど歩いて学校に通い、生まれた村のすぐ近くには、フランシスコ会の修道院がありました。そこの修道士達は、四旬節の時日曜日に罪の赦しの秘跡とか、お説教をするためとか、いろいろな機会に私の村まで来ていました。又自然の収穫と共に、麦やぶどう・サクランボやとうもろこしなどを托鉢にみえることもありました。いつも貧乏な修道士達は裸足にサンダルを履き、荷物を入れる馬車・馬車を引く馬かラバ・又はロバをつれ、いつもニコニコして歌をうたいながら、家から家へ回り「主の平和」と挨拶をしていきました。お昼御飯を、いろいろな家でごちそうになり、ぶどう酒も好きで酔うほどではないのですが、顔を赤くして飲んでいたことを覚えています。

私はまだ５，６歳の頃だったのですが、この修道士達の幸せそうな顔は、私にとっての喜びとなっていました。冬の時、寒くても裸足で歌をうたいながら歩いている姿を見ると私は不思議に思いました。

父や母は修道士達の生活は大変だと話をしているのですが、私にはこの修道士達の人生が楽しいものに見えたのでした。この頃から私の心の中では、大きくなったら修道院に入りたいと思うようになりはじめました。又アシジの聖フランシスコの生き方は積極的であり、人に喜びをうるものだと分かりはじめ、私も修道院に入り修道士になった時、自分の心の中にもその喜びがあふれる様になるためにも、もう一度聖フランシスコの歩んだ道を歩く必要があるのだなあと思いました。

もちろんそれは簡単なものではないということが分かりました。毎日、自分の悪い傾きと戦いながらイエズス様のように、イエズス様をモデルにして生きる様にしなければ決して自分の心の中に喜びが生まれてくることは出来ないからです。

日本に来て、日本人はアシジの聖フランシスコにものすごく魅力を感じていることが分かりました。なぜ魅力を感じているのかは、はっきりとは分からないのですが、おそらく自然に対する尊敬の念と、人間のわび、さび、しぶみに共通する思いがあるのではないかと思います。

初めにわび（侘び）は、おちついていて、さびしさのあるおもむき、閑寂など徘かいや茶道の精神を示しているのですが、フランシスコもこの様なわびの生活を送りたかったと言う気がします。次にさび（寂び）は、もの静かでおもむきがある、じみだが平和な生活を送るなどの意味で松尾芭蕉（1644-1694）がうたっていると思うのですが、神のおぼしめしに従って生きるの意味もあり、日本人にとってもこの様な気持ちは強いのではないでしょうか？最後にしぶみ（渋）ですが、室町時代（1333-1568）からしぶさ、しぶみとして表されており、せいそな物を楽しむことを示し、アシジの聖フランシスコも、鳥のさえずり、魚の色、木の葉の揺れる音などを好み、もっとも東洋人に近い西洋人の聖人だと思うのです。

ヨーロッパへ行くたびにアシジにも寄るのですが、主に日本人が多く、やはりヨーロッパの中でアシジは、わび、さび、しぶみを示す場所であり又聖フランシスコは、ヨーロッパの中で、このような東洋的な文化を作った人とも言えるでしょう。

日本語の学校に通っていた時に、僧であり歌人でもあり書家でもある、良寛さん（1757-1831）について学んだのですが、良寛さんもアシジの聖フランシスコとの共通点が多いと思いました。一つは、２人共お金、物などを捨ててしまい、物質からの欲を開放した人であり、次に、不思議なことに、アシジの聖フランシスコと聖女クララとの間にすばらしい交際があった様に、良寛さんの生活にも「ていしん」と言う若い尼さんとの交際があり、生活に輝きと彼にうたう喜びを与えていたのでした。

良寛さんは、中国語でも日本語でも、短歌や長歌を作った人ですが、聖フランシスコもイタリア語の最初の詩人であり、又イタリア語でも、ラテン語でも、フランス語でも詩などを書いていたのです。東洋と西洋を比較することは難しいと思うのですが、アシジの聖フランシスコはみごとに、東洋の世界を西洋に紹介した様な気がします。ただ、東洋人にない聖フランシスコの特徴は『喜び』ではないかと思います。『喜び』は人間になった神を信じるところから生まれてくるものであり、東洋にはこの様な信仰がないので、なんとなく暗い影がいつでもある様な気がしてしまうのです。「聖フランシスコの喜び」は、神様の作った自然のものから生まれて来るのと同時に、クリスマスの赤ちゃんになった神様の顔でも、その喜びは満たされ、苦しみは、自然を破壊する所から生まれて来るだけでなく、十字架の上で死んでいる神様を見るところから、又その十字架のもとで苦しんでいるお母さんの聖母マリアをながめることから出て来るのです。私が子供の頃に見た修道士の喜びは、この様な喜びだったと思いますし、あの頃見えなかった彼らの苦しみが、今になるとなんとなく分かる様な気がします。芭蕉や良寛さん、アシジの聖フランシスコに出合えたなら、きっといい友達になれたでしょう。

10月の主な典礼・ミサ時刻

| 日 | 曜 | 典礼暦 | 砂川 | 美唄 |
|---|---|---|---|---|
| 2 | 日 | 年間第27主日<br>当教会出身聖職者・修道者のために祈る日 | 9:00 ミサ<br>先読み:高塚　第1:室井　第2:間野<br>答唱詩編:斉藤/古野　オルガン:野呂 | 11:00 |
| 9 | 日 | 年間第28主日<br>司祭と召出を求めるために祈る日 | 9:00 ミサ<br>先読み:多田　第1:西川薫　第2:岡本<br>答唱詩編:三上夫妻　オルガン:斎藤 | 11:00 |
| 16 | 日 | 年間第29主日<br>病者と洗礼志願者のために祈る日 | 9:00 ミサ<br>先読み:高塚　第1:本田　第2:室井<br>答唱詩編:多田/安藤　オルガン:野呂 | 11:00 |
| 23 | 日 | 年間第30主日<br>世界宣教の日<br>教会から離れた信者のために祈る日 | 9:00 ミサ<br>先読み:多田　第1:三上朋　第2:岡本<br>答唱詩編:間野/野呂　オルガン:斉藤 | 11:00 |
| 30 | 日 | 年間第31主日<br>死者のために祈る日 | 9:00 ミサ<br>先読み:高塚　第1:安藤　第2:多田<br>答唱詩編:高塚/古野　オルガン:野呂 | 11:00 |
| ◆平日のミサ　〇砂川教会:月曜日～金曜日　6:30、土曜日　10:00　〇美唄教会:金曜日10:30 | | | | |

◆今月の霊名記念日の方…おめでとうございます(敬称略)

〇砂川教会

1日 幼き聖テレジア　間野千鶴枝、千田玲子、室井寿子、高塚雅子
4日 聖フランシスコ(アシジ)　千田孝嗣、高塚諭
29日 聖ナルチッソ　ナルチゾ神父様

〇美唄教会

1日 幼き聖テレジア　蓮井　愛、吉村知江子
1日 マリアテレジア　小山セツ
4日 聖フランシスコ(アシジ)　小西優、米通祐大、船野奨、吉田淳一
4日 聖フランシスコ(マリア)　東　小夕希
24日 聖ラファエラ　小川亜沙子

◆砂川教会　お知らせ

・ロザリオ会は 14 日（金）　午後 7 時～　信徒会室にて
・10 月はロザリオの月です。毎週日曜日 8:30 からロザリオを唱えます。
・毎週水曜日 10:00～　聖書に親しむ会を実施しています。
・来月 11 月 13 日（日）今田玄五神父様（稚内教会）による黙想会を予定しています。
（赦しの秘蹟も受けられます）

| 砂川　花当番 | |
|---|---|
| 1日(土) | 岡本 |
| 8日(土) | 古野 |
| 15日(土) | 多比良 |
| 22日(土) | 高塚 |
| 29日(土) | 野呂 |

## 2022 年（第 66 回）旭川地区カトリック大会

多田博樹

・9 月 11 日　2022 年（第 66 回）旭川地区カトリック大会に参加しました。
今大会は、ロシアのウクライナ侵略など世界の平和が脅かされていることを鑑み私たち一人一人が平和の道具として働くことができることを祈りながら取り組んでいく事で開催。 大会テーマは「わたしをお使いください」

・参加者は神父様６名（勝谷司教様、間野地区長、長尾神父様、ヒラリオ神父様、他２名）
信者は約 50 名。椅子の両端に指定席を設け、コロナ禍対策をしっかり実施しながら運営。
ユーチューブ配信を同時に実施。みなさん見てくれましたか？

・司教様の説教
日本カトリック司教団は、日本で生まれ育った強制送還の危機にある外国ルーツの子供たちのために法務大臣に対し「在留特別許可」を与えてもらえるように要請書を提出しました。日本で生まれ育ち、日本語しか話せないのに、親の残留資格がない為に、フィリピンやタイ等他国に強制的に送還させるケースが出ています。又残留資格のない子供は、国から厳しい行動規制を受けており、友達と他の市町村に移動する場合も申請が必要、気軽に友達と遊びにもいけない状況です。司教団は、今出来る事を話し合い、団結して国に残留資格の特別処置を求めています。私達が今出来る事は、分かち合いです。分かち合いは難しくありません。高齢者や障がい者、このような残留資格のない親や子供、話を聞いてあげる事でいいのです。私達は対話の時、話をしたがる場合が多いのですが、聞いてあげる機会は少ないのでは？今一度共同体として、何をするか、神様が「わたしたちをどう使って」頂くかを考えていきましょう！

・大町教会訪問は初めてでした。コロナ禍でミサが出来ない時に、聖堂を塗装含めて綺麗にしたそうです。聖歌は最初と最後、聖体拝領のみ聖歌隊が歌った。７名ですが女性と男性の融合が素晴らしかった。担当者に聞くと、普段から練習しているそうです。